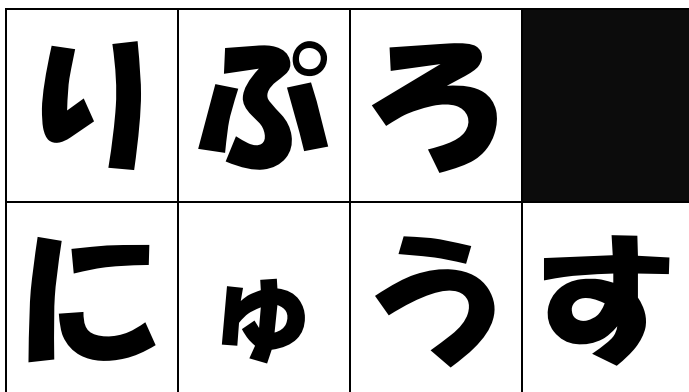




2016 年 10 月号 Vol. 43

編集・発行／リプロネットみやぎ

CONTENTS

■2016 年 リプロ「性の健康」を守る基礎講座

第 1 回開催報告

「性感染症と避妊のお話」

～感染しない、望まない妊娠をしないために～

リプロ「『性の健康』」を守る基礎講座」が開講しました

昨年度の「『女性の健康』を守る連続講座」には延べ 109 人(会員・役員含む)の方たちが参加。2016 年度は男性も参加しやすいテーマを設けて、「『性の健康』を守る基礎講座」として、運営の検討・準備が進められてきました。

9 月 24 日、今年度の講座がスタート。今後ほぼ2カ月に1回、全6回の開催を予定しています。

第1回目の講座には、20 代から 70 代までの 16 人(一般 9 人・会員 7 人)が参加。はじめに当日の講師でもある村口喜代代表が、基礎講座開催の目的について語り、現代社会に生きるひとり一人が、性に関わる基礎的な知識を身につけることの大切さを認識してほしいと挨拶しました。



第 1 回「性感染症と避妊のお話」～感染しない、望まない妊娠をしないために～

講師：村口喜代 代表

【性感染症 (STI Sexually Transmitted Infection) とは】

性行為またはそれに準ずる行為で感染する病気。かつては梅毒、淋病などを「性病」と呼んでいましたが、1999 年に「感染症新法」ができ、「性病」の時代は終わり、「性感染症」と呼ばれるようになりました。1990 年代に入り、性の開放が急速に進み、性行為に関連して感染する病気が非常に増えてきました。STI は性交があれば誰でも感染するかもしれないということ、社会の人権意識の高揚を背景に、感染者の人権に配慮していくべきとの認識が進んできたからです。



日本における STI は 1990 代後半に急増加しましたが、その後低下に転じ、現在は減少傾向が止まり、その後は横這いか、微増に転じています。女性の場合、淋病を除いてクラミジア感染症、ヘルペス感染症、尖圭コンジロームの感染が男性より多い。20 代 10 代ではその傾向が強く、10 代ではこのところ淋病の感染が男性と同等になってきています。これから妊娠・出産する性であることを考えると非常に深刻な問題です。

■感染を放置すると・・・

クラミジアや 淋病、コンジローマなど、感染しても症状が表面化しないものが多く、感染に気づかずセックスすることによって広がります。

性感染症は不妊症、流・早産、子宮外妊娠の原因となり、女性の健康に大きく影響します。子宮頸がんの罹患率を高めるものもあります。母子感染への影響も大きな問題です。

何気なく行った無防備なセックスが、のちに取り返しのつかない結果につながることもあるのです。



■主な性感染症の現状と症状

〈性器クラミジア〉

感染者が特に多く、女性、それも若い世代ほど感染している傾向があります。女性の場合、子宮頸部の炎症が奥に広がり、卵管炎などを起こして、流・早産、不妊症などにつながります。赤ちゃんに感染して結膜炎や肺炎を起こすこともあります。

〈淋病〉

原因となる淋菌は感染力が強く、感染者とセックスをすると簡単にうつります。男性は性行為から3日ぐらいで排尿時に激しい痛みが現れ、感染に気づきやすいのですが、女性はおりものが増加する程度で、気づかない間に子宮や卵管、卵巣などに炎症が広がって、不妊症につながることも少なくありません。

〈尖圭コンジローム〉

ヒトパピローマウイルス(HPV)6型、11型の感染により、皮膚や粘膜の小さな傷から侵入し、1カ月から数ヶ月の後、女性では主に外陰、会陰、肛門周囲、膣などに良性の突起物(腫瘍)ができます。ウイルスを完全に排除することは難しく、再発を繰り返します。

〈性器ヘルペス感染症〉

ヘルペスウイルスの感染によって性器やその付近に発症したもの。ヘルペスウイルスは2種類あり、1型は唇や口腔のあたりに発症し、オーラセックスで性器に感染することもあります。2型は性器接触で感染します。

ウイルスが一度体内に入ってしまうと、体調が悪い時などに何度も再発する厄介な病気です。妊娠中に感染すると赤ちゃんに新生児ヘルペスを起こすこともあります。

〈梅毒〉

過去の病気と思われていましたが、2010 年から 13 年は男性患者の増加が顕著であり、男性同性間感染が多かったが、2014 年には男性の異性間感染の増加にシ、また若年女性の報告数が急増加しています。

梅毒ウイルスは感染力がとても強く、性行為時に粘膜や皮膚の小さな傷から感染し、血液に入り込んで、皮膚症状から全身症状、神経症状へと広がります。症状がでない潜伏梅毒もあります。

女性の場合は、母子感染、流・早産など大きな影響があります。妊婦検診では梅毒検査を行います。身近な仙台でも最近先天梅毒児の報告がありましたが、宮城県でも検診を受けずに飛び込み分娩したケースが年間20 数例あり、先天梅毒の発症が懸念されます。

〈HIV ・ AIDS (エイズ)〉

HIV は「エイズウイルス」のことで、感染すると免疫力が低下して様々な病気を発症します。

HIV の感染力は弱く、ただし、クラミジアなどに感染していると2～5倍感染しやすくなります。感染から6～8週間は検査してもわかりません (window period)。適切に治療することで、今は死ぬ病気ではなくなりましたが、薬は一生服用しなくてはなりません。

2014 年度のデータでは、20 代・30 代で HIV 感染者が多く、50 代・60 代では、いきなりエイズと診断される割合が高くなっています。仙台市では HIV 感染者よりエイズ患者の割合が高く (2012 年度)、早期発見が課題となっています。

■感染を予防するには・・・

性交時にコンドームをきちんとつけることである程度防ぐことはできますが、梅毒や性器ヘルペスなど、すべての性感染症を防ぐことはできません。脱落や破れなどのケースもあります。コンドームを正しく使用している人は少なく、女性の場合は感染予防を男性に依存することにもなります。

感染しないためには、リスクの高いセックスはしないこと。自分の体を守る基本です。

【HPV (Human papilloma Virus) 感染症】

ヒトパピローマウイルス (HPV) による感染症。セックスと非常に関係し、子宮頸部に感染すると子宮頸がんが発症することがあります。HPV は 100 種類以上あり、性交渉のある女性の約 80% は知らない間に一度は感染していますが、ほとんどが免疫力で排除されます。

子宮頸がんの発症に関係する HPV のタイプは日本人では 16 型と 18 型が多く、性行為によって感染します。持続感染が起これば、子宮の入り口 (頸部の上皮細胞) に変化を起こし (異形成)、数年から数十年かけてがん化します。最近は性行為開始が低年齢化しており、その結果 20～40 代の若い年齢での感染者数が急増しています。がん検診をきちんと受けることで重篤にならずに済みますが、現実にはまだまだ死亡する人は多いのが現状です。

16 型、18 型の感染を予防するワクチンが開発されましたが、副作用の問題から、現在接種が頓挫しています。

【避妊～望まない妊娠を避けるために～】



月経周期が正常な女性が避妊しないで性交をした場合、1 年以内に 85%、半月以内に 72% が妊娠するというデータがあります。女性のからだは、避妊しなければ妊娠するという仕組みになっているのです。

避妊法にはいろいろありますが、100% 安全という避妊法はありません。一般的に女性は排卵日を予測することはできません。排卵検査やホルモン検査も一定の限界があります。避妊しても妊娠したという場合は、女性男性双方の原因が考えられます。なかには誤解の多い避妊法もあります。正しい知識を身につけることが望まない妊娠を防ぐ第一歩です。

■主な避妊法

〈ピル (経口避妊薬)〉

100% 安全に近いのはピルですが、飲み忘れしないようにしっかり服用する必要があります。月経痛の緩和や月経不順などの副効用で婦人科医もすすめる傾向にあります。またカジュアルセックスなど性的に活動的な時代になっていることでピルを希望する女性も増えています。

晩婚化が進み出産年齢が上がり、その結果として子宮内膜症が増えていますが、その予防のために、保険適応のピルが登場しました。保険が適用されて使いやすくなりました。

〈IUD Intra Uterine Device (子宮内避妊具)〉

子宮内に装着する避妊具で、婦人科で処置してもらいます。挿入すると受精卵の着床を邪魔して、妊娠を防ぐことができます。月経過多、月経痛に有効な IUS (Intra Uterine System) が保険適応になりましたが、これは元々避妊のために開発されたもので、IUD でもあります。

〈コンドーム〉

日本で一番多く選択されている避妊法ですが、破損、脱落、装着のタイミングのミスなどで妊娠に至るケースは少なくありません。私のクリニックで妊娠中絶手術を受けた女性のパートナーに対する調査では、約半数は挿入するときに付けばいいと誤った使い方をしています。

「立ったら付けよう、コンドーム」が正しい付け方です。きちんと付けなければ、避妊法としてのリスクは高いといえます。感染症予防で使われることもあります。使い方は同様です。

〈勘違いが多い、膣外射精〉

避妊法ではありません。男性の意志に依存する方法でコントロールすることは難しく、失敗すること多い方法です。射精する前に出るカウパー液にも精子が混じっています。

■日本の避妊の現状

主要国の避妊実施率をみると、日本は 54.3%と低い数値です。ノルウェーは 88%、アメリカは 80%と、諸外国と比較してみても、きちんと避妊をすることが定着していない社会といえます。

避妊法についても、日本は圧倒的にコンドームです。膣外射精も多く、男性主導で避妊が行われています。女性が主体的に使うピルはまだまだ普及しているとはいえません。



■ピルについて、もう少し詳しく

ピルには、女性の卵巣で作られる「卵胞ホルモン」と「黄体ホルモン」が少量ずつ含まれている経口避妊薬です。卵胞ホルモン剤の用量によって高用量、中用量、低用量と3種類に分かれていますが、現在は、ピルといえば、ほとんどが低用量ピルのことです。

本来は避妊を目的として服用される薬です。毎日一回服用することにより排卵が抑制され、子宮内膜の増殖も抑えられます。現在はさらに低用量化が進んでリスクも下がり、保険適用されたことで、安心して使うことができるようになりました。

女性のからだは妊娠すると卵巣はしばらくお休み状態になりますが、結婚も遅くなかなか妊娠しない社会になり、現代の女性は卵巣が過剰に働き続けています。「自然」の状態では女性は生涯で 40 回～50 回の月経を経験しますが、現代では 400 回～500 回に増えています。そのことにより子宮内膜症や若い世代の子宮筋腫などいろいろな疾患が増えているのが現状です。ピルを飲み続けることによって、卵巣を休ませて病気を予防することができるのです。

ピルを使って妊娠しないのは不自然ということも言われますが、現代に生きる女性は、「わたしのからだにとって自然ってなに？」という自分への問いかけが必要になってきているのではないのでしょうか。

■人工妊娠中絶

日本での人工妊娠中絶経験者は約 15.5%と高比率で推移しています。そのうち反復中絶者は 35.5%。一度失敗して次はしっかり避妊するという人はあまりいません。クリニックでの問診でも、「彼にちゃんとコンドームを付けてもらう」といった避妊に前向きな言葉はあまり聞かれません。セックスの相手が変わってしまう、またパートナーとの関係性の問題も背景にはあると思われます。

■緊急避妊

妊娠の可能性があるのに、避妊しなかったり、避妊に失敗したときに行うのが緊急避妊です。日本では 2013 年にレボノルゲストレル (LNG) という黄体ホルモン剤が正式認可されました。LNG は排卵を遅らせたり、着床を防いだりの作用など考えられますが、危ないセックスをしたら 3 日以内、その時期を過ぎても服用した方がよいと言われています。副作用も少なく、成功率は高いのですが、それでもごくわずかに妊娠することはあります。価格は 15,000 円と高額です。

【さいごに】

性感染症を心配したり、望まない妊娠をしないためには、きちんとした知識を持って、「その場に及んだ時どのように判断するか」という自分なりの考えをしっかりとイメージしておくことです。それを怠ると、相手に引きずられて反論できないということになります。自分のからだについて正しい知識で武装して、自分のからだに責任を持つ。それがリプロダクティブ・ヘルス／ライツの原点です。

女性のからだは、排卵が近い、月経が終わったなど、頻繁に変化します。そうした変化や、避妊の仕方などについても、相手との関係性の中で、ぶれないでしっかり自分の考えを伝える。そうしたことを話し合うことは、二人にとって当然のことだという自信を持って、よりよい関係を築いていってほしいと願っています。



=====

【アンケート回答から】

○性感染症に関する情報はなかなか入りにくいので、今日は具体的で詳細な情報を知れて良かったです。やはり若い人達への啓発をしなければ大変なことになると、今日の話を聞いて感じました。若い人への講演をどんどん増やしていただければと思います。(60代女性)

○性感染症について、学校で学んだこと以外の知識を多く学ぶことができた。避妊について具体的な数値から必要性を強く感じられました。避妊の部分でのピルの働きやどのような薬かということを知りました。学校での性教育では、ピルという存在、避妊としての道具の一つ、毎日服用しなくてはならない大変なものという程度だったので、もっと大切で知っておかなくてはならないことがあることに驚きました。(20代女性)

○性感染症の実態が分かったのが良かった。(70代男性)

第3回基礎講座のご案内

現代女性のライフスタイルと妊娠適齢期とのズレ

～私の“妊活”も少し振り返って～

と き：11月26日（土）15：00～17：00

ところ：村口きよ女性クリニック

講 師：柴田泰子（リプロネットみやぎ会員）



同封のリーフレットをご覧のうえ、ぜひお申込みください。

また周りの方へのお知らせや参加のおすすめなど、広報のご協力をよろしくお願いいたします。

第2弾 始まりました

みやぎの女性と男性 からだと性のホンネ！100名に聞きました

アンケートにご協力をお願いします。

添書とともに、女性版、男性版、一部ずつ同封いたしましたので、ご本人様、またパートナーがいらっしゃる方は、そのパートナーにもご協力いただけますと幸いです。

結構

=====

【編集後記】

秋晴れが爽やかな季節となりました。朝晩の冷え込みも強くなり、いよいよ本格的な冬の到来ですね。

リプロネットみやぎでは、昨年度の連続講座に引き続き、基礎講座を開催しております。また、今月からは第2回「みやぎの女性と男性、からだと性のホンネ！100名に聞きました」のアンケート調査も8年ぶりに始めました。どうぞ皆さま、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

リプロネットみやぎ事務局

FAX:022-292-0167

e-mail:repro@muraguchikiyo-wcklinic.or.jp